



## 「ないがしろ」にしがちな モバイル端末選びが、 テレワーク成功のカギを握る

ニューノーマルな働き方の1つとして、テレワークやハイブリッドワークが一般化してきた。こうした働き方のためにITツールやサービスを整える企業は多いが、意外と見落とされがちなのが、それらを利用する「モバイル端末(デバイス)」だ。デバイスをないがしろにしているのは、従業員の生産性や満足度は向上しない。いつでもどこでも快適に作業ができる、ニューノーマル時代のモバイル端末と作業環境について考えてみよう。

### コロナ後もテレワーク／ハイブリッドワークは 広がり続ける

新型コロナウイルスの感染対策を契機に、多くの企業がテレワークを導入した2020年。ニューノーマルなワークスタイルが広がる中、オフィス勤務とテレワークを組み合わせた“ハイブリッドワーク”を採用する企業も増えてきている。

オフィスの固定費や交通費の削減、社員のワークライフバランスが改善されることによる業務効率化、企業ブランドの向上などが期待されるハイブリッドワークは、今後も広がっていくだろう。

一方、モバイル端末を持って自宅からオフィスなどに移動するワークスタイルが当たり前になると、IT環境の整備といった

課題が生まれてくる。新たなITツールやサービスが導入されていく中で、意外と見落とされがちなのがノートPCやタブレットといったモバイル端末だ。せっかく優れたツールやサービスを導入しても、それを動かしたり表示したりする端末側が古いままでは、従業員の生産性や満足度は思うように上がらないはずだ。

ノートPCで作業することが前提になれば、情報漏えいなどのセキュリティ対策はもちろん重要になる。加えて長時間操作しやすい画面サイズ、一方で持ち運びやすい薄さや軽量さ、バッテリーでの動作時間など、社員がストレスなく働けるモバイル端末を選ぶことが、テレワーク／ハイブリッドワークを成功させるためのキーポイントになるのだ。では、具体的にどのようなポイントで端末を選べばよいのだろうか。

## モバイル端末は、「操作性の高さ」と「持ち運びやすさ」が必須

時間や場所を選ばず自由に働けることがメリットのテレワークだが、労務管理や通信環境の整備と合わせ、社員一人一人が使うモバイル端末の選定と標準化が課題になる。ノートPCやタブレットなどのモバイル端末には、通常業務をスムーズに行えるだけのスペックがあることはもちろん、Web会議などを快適に利用できるカメラ、マイク、スピーカーを備えることは重要ポイントだ。



富士通  
システムプラットフォームビジネス部門  
CCD事業統括部プロモーション推進部・部長  
丸子 正道 氏

また、テレワークやハイブリッドワークにおいて、モバイル端末の持ち運びやすさが求められる一方、画面が大きく操作性の高いPC環境も重要になる。情報システム部がノートPCを貸与しても、「重くて持ち運びたくない」「画面が小さくて使いにくい」という理由でうまくいかなかったというケースもあるという。

大画面の操作性と持ち運びやすさを基準に、テレワーク向けのモバイル端末を選ぶ場合に検討したいのが富士通の「LIFEBOOK U」シリーズだ。

「長いこと法人のお客様の声をお聞きしていますが、ノートPCを気軽に持ち歩いていただくためには軽くて、薄いことが大前提です。とにかく軽さ・薄さを重視されるお客様には、13.3型画面ながら、軽さ約738g、薄さ約15.5mmを実現の「LIFEBOOK U9311」をオススメしていますが、最近はオフィスのノートPCと同じ15.6型の大画面で自宅でも作業がしたいというニーズが多くなってきているため、15.6型の大画面でありながら、1.32kgという軽さを実現した「LIFEBOOK U7511」を開発しました」

そう話すのは富士通 システムプラットフォームビジネス部門 CCD事業統括部プロモーション推進部・部長の丸子 正道氏だ。13.3型として800gを切る世界最軽量のノートPCを目指して2017年に誕生したLIFEBOOK U9シリーズ。最初のモデルは798gだったが年々改良を重ね、2021年現在は約738gに軽量化を図った。

さらに、店頭販売モデルである「LIFEBOOK UH-X/E3」は世界最軽量を更新する634gという驚きの軽さだ。同社の世の中に軽くて持ち運びやすいモバイル端末を届けたいという想いは、「LIFEBOOK U7511」にも受け継がれている。

### LIFEBOOK U7511 と一般的な 15.6 型ノート PC の比較

	質量 (kg)	厚さ (mm)	バッテリー (時間)
<b>LIFEBOOK U7511</b>	<b>1.32</b>	<b>18.1</b>	<b>15.0</b>
LIFEBOOK A7511 (一般的な15.6型)	2.20	24.9~32.5	10.5
差分	0.88	6.8~14.4	4.5



[LIFEBOOK U7511]



[LIFEBOOK A7511]

一般的な15.6型ノートPCである「LIFEBOOK A7511」と比較すると「LIFEBOOK U7511」の軽さや薄さ、バッテリー容量が際立っていることがわかる

## 外出先でも1日中、作業ができる 長時間バッテリーも選択肢に

モバイル端末を選ぶ場合、軽さと薄さに合わせて重要視されるのがバッテリーでの動作時間だろう。「LIFEBOOK U9311は、標準バッテリーモデルで約11時間、大容量バッテリーモデルならば約23時間という長時間の使用ができます。充電アダプターを持ち歩きたくないという理由で大容量バッテリーモデルを選択される場合も多いですね」(丸子氏)

外出先でバッテリーがなくなって作業が止まってしまったという事態を防ぐためにも、長時間のバッテリー動作は重要だ。大容量バッテリーモデルの場合、標準バッテリーよりも少し重くはなるが、充電アダプターを持ち歩かずに1日中PC作業ができることは大きなメリットになる。

## 満員電車でも安心なモバイル端末を

モバイル端末を持ち運ぶ場合、うっかり落として破損させてしまったり、重要なデータが壊れてしまったりと心配する人もいるだろう。また、満員電車で圧迫されてしまうことで不具合が起きてしまったという話も聞く。

富士通では、満員電車などでバッグの中に入れたノートPCが圧迫されたときを想定した1点加圧試験(前面・背面に荷重:35kgfで加圧)をはじめ、75cmからの落下耐久試験など厳しい条件の試験を行っている。

「軽くて薄くて持ち運びやすく、堅牢であり、長時間使えること。この三拍子がそろっていないとお客様には選んでいただけません。LIFEBOOKが特に力を入れている部分です。ビジネス現場を想定したモバイル端末の耐久試験は、国内最高レベルだと自負しています」(丸子氏)

大学が学生用に選定することも多いLIFEBOOK U9シリーズは、大学生が自転車のカゴに入れて持ち運ぶことを想定した振動試験までも実施している点はユニークだ。堅牢で耐久性に優れていることは、持ち運んで使われるモバイル端末として大きな長所と言える。

## マルチディスプレイで、作業効率が向上

テレワークを始めるに当たって、デスクトップPCからノートPCにリブレースした企業の現場から聞こえる不満が多いのが、「画面が小さくて、PC作



軽量かつバッテリー容量も豊富な「LIFEBOOK U9311」

業がしにくい」という声だ。そうした課題に対して、13.3型のLIFEBOOK U9シリーズを導入した野村証券株式会社の事例を紹介したい。

野村証券では、社内では大型の液晶ディスプレイと外付けキーボードをLIFEBOOKにつないで作業を行い、社外に出るときやテレワークの際にはLIFEBOOKを持ち出すという運用をしている。

ディスプレイやキーボード、有線LANなどを外付けにする場合に便利なのが、専用ポートリプリケーターだ。USB Type-Cケーブル1本でLIFEBOOKと接続・給電でき、ワンタッチで着脱できる。何本ものケーブルを一つ一つ着脱する手間を省け、すっきりとスマートに管理できる。

「オフィスでは以前と変わらないスタイルで作業できることに加え、LIFEBOOKの画面と外部ディスプレイというマルチディスプレイ環境になったことで、さらに作業効率が上がった

## 最新の高速 CPU 搭載 & 見やすい 13.3 型大画面

**お困りごと** PCの処理が遅い

**解決策** 最新インテル® Core™ i5/i7 vPro® プロセッサ搭載  
(※U9311Mを除く)



**お困りごと** 画面が小さい

**解決策** A4ノートPCと大差がない13.3型大画面  
➤ さらに、マルチディスプレイ利用で  
A4ノートPCより快適に



液晶ディスプレイと接続してマルチディスプレイ利用することで仕事の効率は数段上がる

## 専用ポートプリケータで、ケーブル1本での周辺機器接続可能

**お困りごと** オフィスでの周辺機器とのケーブル接続が面倒

**解決策** 様々な周辺機器との接続ができ、PCとはUSBケーブル1本での接続だけでPCへの給電や周辺機器の使用が可能な専用ポートリプリケータを用意



専用ポートリプリケータを使えばケーブル1本で周辺機器と接続が可能だ

と伺っています」(丸子氏)

オフィスでの仕事だけでなく、自宅などでテレワークをする際に、マルチディスプレイにして1つのディスプレイに資料を表示しながら、もう1つのディスプレイでPowerPointやExcelなどの作業をすれば非常に効率的だ。

## ヘッドセットを持ち歩かずに、快適なWeb会議を

新型コロナウイルスまん延による緊急事態宣言で、大きく変わったことのひとつにWeb会議の一般化がある。今後、新型コ

ロウイルスの流行が下火になって、対面できるようになっても「Web会議で済むものはオンラインで」という流れは止まらないだろう。

通信環境を整えた一定以上のスペックを持つ端末であれば、映像が滑らかに動かないといったことは防げる一方、「声が聞き取りにくい」という場面も多い。社内ミーティングであればたいした問題ではないが、お客様との大切な商談の場合などでは注意したいところだ。

「LIFEBOOK UシリーズはWebカメラの性能はもちろん、特にスピー

カーとマイクにこだわっています。タイピングなどの振動による雑音を和らげ、音が耳に届きやすいスピーカー設計を行い、不要な音を取り除いて声を聞き取りやすくするようにマイクを配置しています。ヘッドセットなしでも、スムーズなWeb会議が可能です」(丸子氏)

自宅やシェアオフィスなどでWeb会議に参加する場合、ヘッドセットを持ち歩かなくても快適な音質でスムーズに会話できるのは嬉しいポイントだろう。また、チャットなどでのタイプミスが減らせる打ちやすい設計のキーボードも富士通ならではの魅力だ。

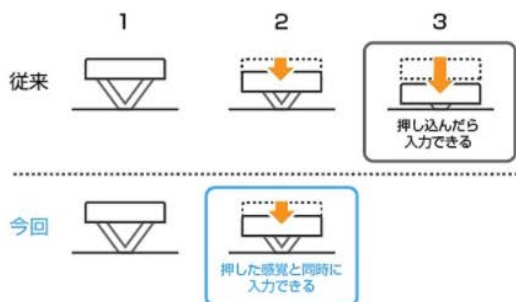
### U9シリーズ&U7シリーズ

フィットしやすい凹型状の球面キートップ



### U9シリーズ&U7シリーズ

軽いタッチでも確実に入力 高レスポンスキーボード



※効果をわかりやすく表現したイメージです。

滑らかな入力と軽いタッチで疲れにくいこだわり設計キーボード

### U9シリーズのみ

位置に応じてキーの重さを調節 二段階押下圧キーボード



### U9シリーズ&U7シリーズ

見やすいフォントとこだわりの配列



キーピッチは約19mm(U7511は約18.4mm)と深いキーストローク(U7シリーズは約1.7mm、U9シリーズは1.5mm)のフルサイズキーボードを搭載

テレワークやハイブリッドワークが多くの企業で標準になっていくなか、多種多様な業種の企業にモバイル端末を提案してきた丸子氏はこう話す。


「テレワークをうまく活用されている企業の方と話していて感じるのは、実際に使う人のワークスタイルやライフスタイル

に合ったモバイル端末を選ぶことが非常に重要だという点です。テレワークで生産性を向上させていくためにも、エンドユーザーが“これを持ち運んで使いたい”と感じる端末を選定していただければと思います」



在宅ワークに最適なPCはこちら

大画面のPCは重くて持ち歩けない  
そんな常識を軽々と変えていく



FUJITSU Notebook  
LIFEBOOK U7511



インテル®Core™i5 vPro®プロセッサ搭載で  
高い負荷の作業も快適かつセキュリティを強化

● [作業効率がアップする大画面&軽量セキュアモバイルPC LIFEBOOK U7511](#)

すべての製品名、サービス名、会社名、ロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。  
※本記事は2021年10月20日にビジネス+ITで掲載された記事の転載になります。

お問い合わせ先

【購入相談窓口】 通話料無料 0120-959-242

受付時間 9:00~18:00(土・日・祝日、当社指定の休業日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

※富士通パートナー及び弊社担当営業から購入を希望されるお客様は、直接担当者へお問い合わせください。